



建交労



2020年11月17日
建交労神奈川県南支部

2020年秋季年末闘争No.13

2020年度推進ニュース④通算201号

発行責任者 佐藤 章

秋の天城越え伊豆の踊り子を辿る散策 小春日和に恵まれて親父たちの珍道中！

神奈川県南支部は、昨年9月22日におこなった“かまくら散歩”以来のレクリエーション活動を1年2ヶ月振りの11月14～15日に実施した。10名の参加を目標にしたが、残念ながらコロナ禍の影響もあって参加者は佐藤委員長、清野副委員長、大島書記長、益山さんと、赤羽の5名だった。ちなみに参加者の平均年齢は40歳代前半の清野さんの参加で若干下がっているが約62歳だ。

めざすは、紅葉が始まっている（と思われた）伊豆半島“川端康成の小説・伊豆の踊子”の道を辿る散策だ。

小春日和という言葉がぴったりの朝を迎えた14日、参加者4人は同じ電車の同じ車両に各自の最寄り駅から乗車して合流し熱海駅で乗り継ぎ三島駅へ、そこから伊豆箱根鉄道駿豆線に乗り換えて終点の修善寺駅に11:06に到着した。一方、独り別の電車を使って参加するXさんは修善寺駅着11:08の特急電車で到着し合流する予定であった。



伊豆箱根鉄道駿豆線人気のラッピング

今回も県南支部レクお馴染み珍道中！

神奈川県南支部のレクリエーションは2017年の富士登山以来、高尾山登山、大山登山、かまくら散歩と、いずれも“お笑い種”になる珍道中を繰り返しているが、この旅でも珍道中が待ち受けていた。Xさんが乗っているはずの特急列車は予定時刻に到着したのだがXさんは降りてこない。“どうしたのか”と思っているところにXさんから「誤って特急列車の下田行き車両に乗車して東伊豆の伊東駅に着てしまった。なので、日中は独りで行動し今夜の宿で合流したい」との連絡が入った。だが、Xさんを待っていた4名はその申し出を認めず「直ちに合流するよう」求める。Xさんも渋々ながら了解し、修善寺から最初の目的地に予定している“浄蓮の滝”での合流をめざして移動を開始することになった。

先行きに不安を感じたが、4人は予定どおり修善寺駅からバスに乗り“日本の滝100選”



にも選ばれ、演歌歌手・石川さゆりさんの歌でも有名になった“浄蓮の滝”を訪れた。暑くて上着を脱いだ4人は“浄蓮の滝”の駐車場から高い木立に囲まれた長い階段を下りて行くと太陽の光は鬱蒼と茂る木々の葉に遮られ、一転して肌寒さを感じるほどだ。楽しみにした紅葉には一足早かったが、澄み切った空気を裂いて落差25mから青い滝壺に落ち込む荘厳な滝を堪能して4人は急登の階段を引き返した。

浄蓮の滝で待っていた恐怖の階段アクシデント!

恐怖のアクシデントは“滝口”から戻る長い急な登り階段からはじまった。4名が滝口から駐車場にたどり着いた時間は、Xさんが“浄蓮の滝”に到着するまでには予定どおりの時間でも1時間以上の間あったので4人は駐車場に面した一番大きな食堂に入って昼食休憩を取ることにした。

まずは“冷えたビールで乾杯”とグラスを合わせるとBさんの様子がおかしい。顔は蒼白で汗が滲み出ていてぐったりしている。隣に座っていたFさんがBさんの額に手を当てると肌



天城名物猪鍋の看板から顔を出す

は冷たく意識も薄れている様子だ。これはいけない! Fさんは、慌てて店主と思われる男性に声をかけてBさんを横にして休ませたいと頼むと、快く応じてくれ、店奥にある畳敷きの部屋を案内されてBさんを寝かせて休ませることができた。Bさんは滝口から階段を登ってくるたびに何度も休憩をしていた。心臓に急激な負担がかかったための症状かも知れない。

残ったKさん、Lさん、Fさんは、Bさんを心配しながらもビール大瓶4本を開け、名物のワサビ丼とワサビそばを食してBさんの回復を待つ。やがてXさんが乗るバスが“浄蓮の滝”に到着する時間が近づくと、幸いBさんは元気になりアイスを食べ落ちて落ち着いたようだ。

河津七滝の散策に続き歩け歩けの一大行進



七滝の1つ大滝の前で

“浄蓮の滝”^{かわづななだる}に到着したバスの中で無事にXさんと合流した一行はつぎの目的地河津七滝遊歩道入り口の水垂^{みずだれ}に到着、ここからは歩きやすく整備された下り路を辿って30分余り大小7つの滝めぐり。Bさんも元気を取り戻して滝めぐりを楽しんでいる。

七滝めぐりを無事に終えると、近くの^{みずだれ}から伊豆急行“河津駅”行きバスが出ている。しかし、そのときFさんが「川端康成など著名な文人墨客が宿泊した“福田屋”という古い旅館まで歩いて10分ほどだから行ってみよう」と言い出した。何も知らない他の4人は言われるままに

Fさんのあとにつづく。ところが歩けど歩けど目的地は見えてこない。このままでは宿の夕食時間に間に合わなくなる。Bさんの足どりもまた心配になってきた。結局は30分も歩いたところの^{みずだれ}から“河津駅行き”のバスに乗った。Fさんの昔の記憶をたよりにめざした“福田屋”さんは見ることなく、歩け歩けの悲惨な一大行進で終わった。(右の写真は踊り子像がある初景滝の前)



宿の夜は明け方4時過ぎまで元気に懇談!



宿の夕食で何はともあれ乾杯

伊豆急網代駅から徒歩10分程の高台にある宿“東京トラック健保の保養所”に着いた一行は、温泉に入る間もなく夕食会場へ、夕食が終わると部屋での懇親が延々と続き、明け方4時過ぎまで頑張った人も。それでも8時からの朝食では、みんな御代わり(元気だな〜)。ここで珍道中は終わり。午後から同じ場所での会議に出席する1人を除いて4人は帰途についた。

次回は桜の筑波山登山がいいなどの意見! 大勢参加してね。